

# 労働経済学へのいざない

## 1. 労働経済学とはどのような学問か

私達は日々の暮らしのなかでさまざまな決定に直面する。例えば、雇用に関して次のような問いを投げかけることがある。

- 1) 就職しようか、あるいは大学院に進学しようか。
- 2) どのような企業に就職しようか。どのような職業に就こうか。
- 3) 大企業と中小企業に就職するのでは何がどのように違うのか。
- 4) 正社員と非正社員の違いは何か。
- 5) 専業主婦と共働きの人生では何がどのように違うのか。

勿論、自分の人生なので自ら決定することが重要である。労働経済学では、これらの問いについて、最適な判断を導くための経済学的なアプローチを紹介する。あるいは、雇用に関するさまざまな知識や情報を提供して、より良い選択が可能となるような講義を展開する。

労働経済学は労働市場におけるさまざまな経済活動について研究する応用経済学の一つである。もっと簡単に説明すると、雇用に関するあらゆる活動や現象を研究の領域とする。

では、雇用に関する活動や現象についてもう少し具体的に説明しよう。まず、私達の多くは労働供給の担い手として、経済活動に参加する。この場合、効用を最大化すると合理的な判断のもとでは、時間の最適な配分を考えて、労働供給を決定する。企業は経営目的を考慮して労働需要を決定する。どのような雇用戦略が企業の経営目的と合致するのか。さて、労働供給と労働需要により、均衡賃金が導き出される。実際、同じような仕事内容でも処遇の差はしばしば観察される。労働経済学では理論と現実のギャップをどのように説明するのだろうか。一緒に考えてみよう。

## 2. 労働経済学の重要性

現在の日本の社会はさまざまな問題に直面している。これらの問題解決のために、新しい雇用、新たな働き方が求められるだろう。変化の激しい社会において、自らが望む豊かな人生を歩むために、雇用について理解を深めることは何よりも重要だろう。

■労働経済学  
■国際雇用論 I・II

NO IMAGE

石井 久子  
(いしい ひさこ)

慶応義塾大学を卒業後、日本IBM株式会社勤務を経て、コンビア大学大学院に留学。最近フランス製の圧力鍋を購入した。このお鍋で料理すると時間を短縮できるが、煮込み料理はじっくり時間をかけた方がやはり美味しいようだ。学ぶことにも近道はなさそうだ。